

利用学習計画書

平成25年6月6日
担当 第6学年 門真 桂子

- 1 ねらい
 - ・身近に残された遺跡や遺物にふれることにより、旧石器時代・縄文時代の人々の生活の様子を調べ、当時の暮らしや社会の様子について理解を深める。
 - ・石器や土器作りなどの体験活動を通して、旧石器時代・縄文時代の人々の知恵を学び、歴史学習への興味関心を高める。
- 2 評価
両施設の見学と体験学習を通して、旧石器時代・縄文時代の人々の理解を深めるとともに、歴史に対する興味関心を高めることができたか。
- 3 学習活動について
社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」の発展学習として位置づける。
- 4 事前指導
 - ・旧石器時代や縄文時代の人々の生活について、これまでの学習を振り返る。
 - ・富沢遺跡や山田上ノ台遺跡について調べる。
- 5 当日の指導（活動）内容
 - （1）地底の森ミュージアム
 - 1）見学学習：全体で館職員の説明を聞きながら、地下展示室の見学学習ノートを利用して、1階展示室の見学
 - 2）体験学習：石器作り体験
 - （2）縄文の森広場
 - 1）見学学習：学習ノートを利用して、野外展示及び館内の展示見学
 - 2）体験学習：土器作り
- 6 当日の交通手段 貸し切りバス
- 7 事後指導
 - ・学習ノートや体験したことを基に、学習のまとめをする。
 - ・調べたことや体験したことを新聞に

利用学習報告書

平成25年8月20日

担当 第6学年 門真 桂子

1 事後指導について

(1) 実施日

平成25年6月8日・10日

(2) 主な内容

- ・社会科の授業で、縄文時代の前に旧石器時代があった事を確認し、感想を発表し合う。
- ・見学した事や石器づくり・土器作りの体験した事について振り返り、感想を発表し合う。
- ・学習ノートをまとめる。

2 送付する資料

学級通信



仙台市立松森小学校
第6学年・学年だより
2013. 7. 18
野焼き編

縄文土器が完成!!

曇り空であり暑くもなく、野焼き日和かと思って出かけていきましたが…なんと縄文の森広場の方は、ほんとに細かい霧雨。焼くかどうか迷う天気でした。しかし、ここまで来たら焼きたい!! 子供たちに見せたい!! ということで、本炊きになる前に雨が強くなったら途中でやめるという条件で始めました。

最後まで焼かせてと祈るような気持ちで…。トタンを敷いて、地面から水分があがってくるのを防ぎました。お天気もなんとかもってくれて、無事に焼くことができました。しかし、雨が降ってきそうな状況は変わらず、急いで焼いた方が…。粘土がよい物だったので、温度を急激に上げて大丈夫。2時間半で焼き上げました。縄文人はきっと夕方から朝にかけて焼いたのではないかとされています。火の色や焼けた土器の色で焼け具合を判断することができるからです。



①土器ならべ・あぶり

火床のまわりに板をしき土器をならべました。土器とは1ヶ月ぶりの再会でした。自分の作った土器を忘れてしまっている子も(´_`;)。他の学校の土器も一緒に焼くことになりました。地面が相当ぬれているのであぶりという土器を温めるための作業時間を長くとりました。

ときどき土器を回して向きを変え、全体が温まるようにします。急激に温度を上げると割れる原因になるからです。

「あ～ああづい～」

「あ～あけむい」

と、即泣きが入っていました。



②土器入れ

土器が十分の温まったら、おきを広げての中に土器を入れていきます。いよいよ土器を焼くことになります。熱いのと煙いので、みんな顔にタオルを巻いて強盗団のような出で立ちでの作業です。写真だけではこの熱さと煙さは伝えきれません。

なかなか温度が上がらず、ここでまた時間を取って土器の周りで木を燃やして土器を温めました。不十分だと、次の本炊きで、土器は割れてしまいます。



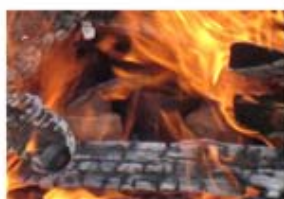


④本炊き

土器を入れ終わったら、周りにキャンプファイヤーをするときのよ
うに木を組んでいきます。私も今まで10回ほど野焼きをしているの
ですが、縄文の森の焼き方とは違って徐々に温度を上げていくやり
方です。そうすると7時間ぐらいかかります。ここでは一気に温度を
上げて短時間で焼き上げる
やり方をしています。粘土そ

のものが割れにくいように調整してあるので、それでも割れず
に焼き上げることができます。

炎に包まれて、土器も次第に
色を変えていきます。



⑤さまし&土器だし

燃えるだけ燃えるのを待って、後はさめるのを待ちます。急激な温度変化は上がるときでも下がる
ときでも割れる要因になります。冷めるのを待つ間に、焼マシュマロ~のはずで準備もしていったのです
が、その間に子供たちは、まだ勾玉作りをしていて残念ながら出来ませんでした。割れることなく土器
は焼き上がりました。めでたしめでたし！



勾玉作りの様子



実物をもうご覧になっていま
すよね。上手に作っていま
した。さっそく出来た勾玉を
首から提げてご満悦。

先にも書きましたが、他の学校さんの土器も一緒に焼きました。手にする土器は一緒かも知
れませんが、でも、その課程を体験するのとしらないのとでは大きな違いがあります。特にこの子
たちには、実際にやってみるということが必要だと感じています。

あ！檸檬ちゃん

6の1 2013. 6. 7 №39

社会科の校外学習で縄文の森広場と地底の森ミュージアムに行ってきました。

旧石器人

「地底の森ミュージアム」旧石器時代を中心としたテーマ施設です。ここでは富沢遺跡から発掘された2万年前の旧石器時代の遺跡面をそのままじかに見る事ができました。ここに2万年前に人が立

っていたと考えると、自分も今その時代にいるような錯覚に陥ってしまいました。さらに、発見された資料などから当時の環境と人間の活動

を学習することができました。ここでは、体験学習として石器作りに取り組みました。

山形県から採取した「頁岩(けつがん)」を割った物を材料に、刃になる部分を決め、やりの先になるよ

うにシカの角を使って叩いて整形していきます。間違っ

って自分の手を叩いた人も。

みんな縄文人



場所を移動して、縄文の森広場で昼食。ゆっくり食べている時間はありませんでした。天気良かったので、外で食べることができました。ここ「縄文の森広場」は、約4千年前の大きな縄文ムラであった山田上ノ台遺跡を保存し活用するための施設です。ここでは、復元された竪穴式住居や、出土した縄文土器などを見ることができました。また、体験学習もいろいろできるので、今回は縄文土器作りに挑戦しました。学校で粘土の扱いを練習しておいたこともあり、子どもたちは上手に土器を作ることができました。

①まずは粘土をこねます。

②次は「底」になる部分をつくります。ピンボ力をこめてグイグイこねまん珠くらいの大きさの玉をす。しっかりこねないと空作ったら、それを伸ばして気が入って焼いたとき破厚めのおせんべいのような製する原因になります。にします。

③あとは、粘土を紐状にして1段1段積み上げていきます。その都度、内側・外側につなぎ目が見えないように粘土を伸ばしていきます。手早くやらないと、粘土が手の熱で

乾いてひび割れてしまいます。形が出来上がったら、土器を照いて、文様を付けます。みんななかなかの出来映えでした。



出来上がったものは、乾燥棚に置いて、7月3日に野焼きするまで乾燥させておきます。

教科書では扱わなくなってしまった時代の学習でしたが、二つの施設で学習することによって、ここ仙台にも2万年以上も前から脈々と続く人間の営みがあること、そして、わたしたち一人一人もその歴史を担っていることを感じてくれたようでした。

そして最後は、遠見塚古墳。「前方後円墳」の後円の部分から、ごろごろ転がってキャーキャー騒いでいて、下校途中の遠見塚小学校の子どもたちが何事かとみていました。家に帰ってから、どんな土産話が語られたでしょうか？大人の方から話をふって、視点を広げてほしいとも思います。共有するものを親子でたくさん持つてほしいと思います。

